

《専門教育科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）			科目ナンバリング	5021209200
担当者氏名	原 志津			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

教育相談は、幼児、児童、及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児、児童、生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え支援するために必要な基礎知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎知識を含む）を身に付ける。

《テキスト》

コンパス「教育相談」 建帛社 住本克彦編著

《参考図書》

学習指導要領（文部科学省）生徒指導提要（文部科学省）「スクールカウンセラーがすすめる112冊の本」滝口・田中 創元社

《授業外学習》

授業で紹介する事柄で、関心のあることには積極的に調べて学んでください。このころについて学ぶための本のリストを初回授業で配布するので、その中から一冊を選んで手書きで5枚の感想文をかいいて、最終授業日に提出してください。

《学習状況・理解度の確認》

小テストやレポートはコメントをつけて返却する。 最終回の「まとめ」は全体的な講評を伝える。

《備考》

教員は、臨床心理士の資格をもつ実務家教員である。授業内で、カウンセリングのロールプレイやフォーカシングというセルフカウンセリングを行い、実感を持って学べるよう（アクティブラーニング）工夫している。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	カウンセリングの基本技術を学ぶ。
		自分自身のところに焦点を当てる方法を学ぶ。
		子どもたちのサインに気づき、こころの成長・変化のプロセスを知る。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	65%
小テスト	
レポート	20%
発表・実技	
授業内課題	
その他（ ）	15%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	15回の授業の構成について。「人の話しくく」ということの心得を考える。	配布資料を読んで復習	45分
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について学ぶ。	基本用語の整理	45分
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）をおこなう。	ロールプレイの感想レポート	45分
4	カウンセリングのプロセスについて	カール・ロジャーズの「心理療法の過程概念」を学ぶ。	配布資料の整理	45分
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「過程概念」から発展した「フォーカシング」について学び、実際に体験して学ぶ。	小テストの準備	45分
6	自分自身のテーマを知る	カウンセリングについて的小テスト（30分）、自分自身のテーマを知るための心理テストを体験する。	心理テストの感想レポート	45分
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる「症状」について臨床心理学の考え方を学ぶ。	配布資料の復習・予習	45分
8	軽度発達障害について学ぶ	軽度発達障害について学ぶ	配布資料の復習・予習予習	45分
9	軽度発達障害について学ぶ(2)	軽度発達障害について、運動発達という側面から学ぶ	配布資料の整理	45分
10	いじめの被害者・加害者への理解と対応	学校と教育の場でいじめによって辛い思いをする子どもたちを減らすための取り組みについて考える。	配布資料の復習	45分
11	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ	配布資料の復習	45分
12	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景とその理論について学び、ひとつの事例について知る	映像教材に対する感想レポート	45分
13	不登校の子どもへの理解と対応	どのような態度で子どもたちに向き合えば、不登校の子どもたちの問題解決につながるのか考える。	配布資料の予習と演習の復習	45分
14	教師のメンタルケア・教育と福祉の連携	子どもたちの心のケアと教師のメンタルケア・教育と福祉の連携-スクールソーシャルワーカーの役割を知る。	配布資料の予習と復習	45分
15	学習のまとめ	自分なりに今後の教育現場で活かせるよう授業の学びをふりかえる。	配布資料の整理	60分

《専門教育科目》

科目名	生徒指導論			科目ナンバリング	5021209600
担当者氏名	岡田 広示			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ I 期

《授業の概要》

受講者は、学習指導と並ぶ学校における重要な教育活動である生徒指導は、児童生徒一人一人の人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して、全ての教育活動を通じて行われるものであることを理解し、教師としての対応力を身につける。

《授業外学習》

テキストの生徒指導提要のページをしっかりと呼んでおくこと。

《テキスト》

生徒指導提要（平成22年3月 文部科学省）

《学習状況・理解度の確認》

毎回のコメント用紙に記入された事柄について、重要と考えられるものについて講義のはじめに解説する。

《参考図書》

子どもの社会性を育む積極的生徒指導（中村豊著、学事出版）

《備考》

student teaching theory

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	生徒指導の意義や原理について理解する
		全ての学級・学年・学校における生徒指導の進め方について理解する
		生徒指導上の課題を把握しチームとしての学校を確立し外部関係機関との連携を含めた生徒指導の在り方を理解する

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	40%
小テスト	
レポート	30%
発表・実技	
授業内課題	30%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	積極的生徒指導の意義と原理		60分
2	生徒指導と学習指導	生徒指導と各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動との関連について	生徒指導提要P23	60分
3	校内における組織体制の在り方	学校における生徒指導体制と教育相談や特別支援教育校内支援体制と連携及びその違いについて	生徒指導提要P88-89	60分
4	集団と個	全体指導と個別指導に対応できる柔軟な対応策について	生徒指導提要P75-77	60分
5	生徒指導に関する調査結果	学校における問題行動の現状と課題	文部科学省HP	60分
6	事例研究	いじめについての具体的な対応策の検討	生徒指導提要P173-174	60分
7	事例研究	不登校等について、家庭訪問を含めた対応策の検討	生徒指導提要P187-189	60分
8	事例研究	児童虐待について児童相談所や警察との連携を通した対応策について	生徒指導提要P212-217	60分
9	児童生徒理解と生徒指導	発達障害の児童生徒への理解と学級づくりについて LD, ADHD, ASD等の児童生徒と集団の関り	生徒指導提要P42-537	60分
10	講義と事例研究	校種間連携の現状と課題	生徒指導提要P75-77	60分
11	生徒指導と連携	児童生徒の問題行動をめぐる学校・家庭・地域・関係機関の連携の現状と課題（青少年の行動の理解—インターネットと性）	生徒指導提要P178-179	60分
12	特別活動との関連	生徒指導と学級・学校経営について	生徒指導提要P138-141	60分
13	法規に準じた生徒指導	問題行動に対する懲戒と関連法規について		60分
14	生き方としての生徒指導	キャリアカウンセリングと今日的な生徒指導の在り方		60分
15	まとめと試験	自尊感情を育む積極的生徒指導の意義についてのまとめと確認のための試験		60分

《専門教育科目》

科目名	進路指導論			科目ナンバリング	5021209700
担当氏名	岡田 広示			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

進路指導は、生徒一人ひとりが自分の将来の生き方への関心を深め、主体的に将来の進路選択・計画を行い、将来の適応に必要な能力をはぐくむために、教師が計画的、組織的、継続的に取り組む教育活動である。近年ではキャリア教育として、より広く、キャリア発達を促す指導・援助の系統的な展開が目指されている。この授業では、進路指導・キャリア教育の意義、内容、及び方法を確認するとともに、それらの背景となる理論についても学習する。

《テキスト》

・小泉令三・古川雅文・西山久子（編）「キャリア教育―生涯にわたる生き方教育の理解と実践」北大路書房 ・必要に応じてプリントも配布する

《参考図書》

文部科学省「中学校キャリア教育の手引き」教育出版、文部科学省「高等学校キャリア教育の手引き」教育出版。（これらはネット上でも参照可能）。その他、適宜紹介する。

《授業外学習》

・教科書等の指定箇所を読んでおくこと。
・授業後には、授業で配布された資料等を活用して、授業内容の振り返りを行うこと。

《学習状況・理解度の確認》

・授業の要点と感想を書いてもらい、コメントを付して返却する。

《備考》

・一部、グループ学習を取り入れ、学生の意見を聞きながら講義を進めるなど、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を心がける。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	進路指導の意義、内容および方法について理解し、説明することができる。
		キャリア教育の意義、内容、方法、および背景となる理論について理解し、説明することができる。
		キャリア教育を組織的・計画的に実行する方法を理解し、計画を立案できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	60%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	0%
授業内課題	40%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	進路指導の意義と内容	学校における進路指導の意義と内容について論考する。	配布されたプリントを読む	60分
2	進路指導・キャリア教育の歴史と社会的背景	職業教育、進路指導からキャリア教育と変遷していった歴史を振り返り、その社会的背景について概説する。	配布されたプリントを読む	60分
3	キャリア教育の意義と内容	学校におけるキャリア教育の意義と内容について概説する。	テキストの第1章を通読	60分
4	進路指導・キャリア教育の理論1（特性論）	進路指導・キャリア教育の理論的背景の一つである特性論について概説する。	テキストのp14～p17を通読	60分
5	進路指導・キャリア教育の理論2（発達理論）	進路指導・キャリア教育の理論的背景の一つである発達理論について概説する。	テキストのp.17～p.20を通読	60分
6	進路指導・キャリア教育の理論3（学習理論）	進路指導・キャリア教育の理論的背景の一つである学習理論について概説する。	テキストのp.21を通読	60分
7	教育課程と進路指導・キャリア教育	進路指導・キャリア教育と教育課程との関係について解説する。	テキストの第3章を通読	60分
8	進路指導・キャリア教育の方法と技術	進路指導・キャリア教育で用いられる特徴ある教育方法について解説する。	テキストの第4章を通読	60分
9	小学校におけるキャリア教育実践	小学校におけるキャリア教育の実践について解説する。	テキストの第8章を通読	60分
10	中学校におけるキャリア教育実践	中学校におけるキャリア教育の実践について解説する。	テキストの第9章を通読	60分
11	高等学校におけるキャリア教育実践	高等学校におけるキャリア教育の実践について解説する。	テキストの第10章を通読	60分
12	進路相談・キャリアカウンセリングの基礎	進路相談とキャリアカウンセリングの基礎について概説する。	テキストの第7章を通読	60分
13	進路指導・キャリア教育の組織と推進	進路指導・キャリア教育を行うための組織と推進方法について概説する。	テキストの第6章を通読	60分
14	進路指導・キャリア教育の評価	進路指導とキャリア教育の評価方法について概説する。	テキストの第5章を通読	60分
15	諸外国におけるキャリア教育	諸外国、特にアメリカにおけるキャリア教育について概説し、わが国のキャリア教育と比較する。	テキストの第14章を通読	60分

《専門教育科目》

科目名	教職概論			科目ナンバリング	5021210100
担当氏名	岡田 広示			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	1 年 ・ I 期

《授業の概要》

教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の教員の「仕事」や「立場」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉え、チームとしての学校の在り方を考察するとともに、法的な位置づけを理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。

《テキスト》

『教職論（ミネルヴァ教職専門シリーズ3）』 広岡義之・津田徹（編著）、ミネルヴァ書房 『法規で学ぶ教育制度（よくわかる！教職エクササイズ7）』 古田薫・山下晃一（編著）、ミネルヴァ書房 その他必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

授業中に指示します。

《授業外学習》

配布された資料を読んでレポートを作成する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回、授業終了時に提出する学習記録カードをコメントを付して返却する。また、質問や重要なコメントに関しては授業内で取り上げて解説する。

《備考》

必要に応じて、グループディスカッション、クラス全体での討議等を実施し考察を深める。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解し、自分なりの教職観を持って、自身の課題を省察することができる。
		教員養成と教員免許制度について理解している。
		教員の任免と服務について理解している。
		教員の種類と職務、校務分掌について理解している。
		教員に求められる資質能力と研修について理解している。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	60%
小テスト	10%
レポート	20%
発表・実技	5%
授業内課題	5%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教職とは	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持ち、教員を目指すものとしての姿勢について考察する。	教員採用試験について	60分
2	さまざまな教職観とその歴史の変遷	・教職観の歴史の変遷をたどりながら、教職とは何かを考察し、自分自身の教職観、教員像を獲得する。	良い教員とは	60分
3	教員に求められる資質・能力	・教員に求められる資質・能力を、さまざまな答申やデータから読み解き、自分自身の課題を明らかにする。	プリントを読んで感想を書く	60分
4	教員養成と教員免許制度	・教員免許制度の法的側面を学び、教員養成の仕組みを理解する。 ・教員採用試験の概要を知り、採用試験までの展望を持つ。	採用試験合格に向けた計画	45分
5	教員の職務①:教員の種類と職務、校務分掌、チーム学校	・学校の教育活動を支える教員組織と役割分担、連携協力、チーム学校の意義を理解する。	校務分掌について調べる	45分
6	教員の職務②:学習指導、生徒指導、その他	・学習指導、生徒指導、進路指導、教育相談、その他の教員の職務について理解する。	教員の一日をレポートする	45分
7	教員の職務③:保護者・地域との連携協力	・保護者や地域住民との連携協力の意義を理解し、どのようなあり方が望ましいか考察する。	事例を調べる	45分
8	教員の職務④:アカウンタビリティと学校運営	・学校運営のプロセスを理解する。 ・学校の果たすべきアカウンタビリティとは何かを理解する。	学校評価の結果を分析する	45分
9	教員の人事管理①:服務	・地方公務員法および教育公務員特例法等から教員の服務と身分について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
10	教員の人事管理②:任免と服務の監督、懲戒	・教員の任免に係る制度、教員の身分保障と分限、懲戒等について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
11	教員の人事管理③:教員評価	・教員評価の意義と課題について理解する。	プリントを読んで感想を書く	60分
12	教員の資質向上と研修	・教員の研修制度について理解し、資質向上のためにどのような取組を行う必要があるかをグループディスカッションを通して考察する。	教員としてのキャリア計画	45分
13	教員の労働環境	・教員の勤務実態、労働条件について、事例にそって理解した上で働き方に関する課題についてディベートを行い深める。	プリントを読んで感想を書く	60分
14	教師という仕事—やりがいと悩み—	・教員としてのやりがいや悩みについて、さまざまな文献を通して教員の生の声を聞き、教職に対する自分自身の考えを整理する。	事例を調べる	45分
15	目指す教員像と課題	・学習を振り返って、教職とは何かを考察する。 ・どのような教員になりたいかを、多様な視点から述べ、自らの課題を明らかにする。	どのような教員をめざすか	60分

《専門教育科目》

科目名	特別支援教育論			科目ナンバリング	5021211200
担当者氏名	杉田 律子			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

2007年4月より、特別支援教育の対象は軽度発達障害児まで、また通常学級で学ぶ子どもへの支援まで含まれるようになった。今後は一層、インクルージョンが進むと予測され、すべての学校教員が特別な教育支援を必要とする子どもたちの支援を学ぶ必要がある。この講義では、教員免許取得を目指す者として、最低限必要な障害の理解、特別支援教育の歴史的背景について学ぶとともに、子ども達とその家族への支援について考えることができることを目標とする。

《授業外学習》

事前学習課題を提示し、発表し合うことにより深く学ぶ学修を含む。積極的に課題に取り組むこと。

《テキスト》

廣瀬由美子・石塚謙二編「特別支援教育」ミネルヴァ書房

《学習状況・理解度の確認》

毎回manabaを使用した「学びの振り返り」を行い、次回授業開始時に講評。必要に応じて小テストや課題を実施し、コメントを返す。オフィスアワーや授業の前後での質問に応じます。筆記テストでは、基本的な知識を問う問題と事例から支援方法を考え総合的な力を確認する

《参考図書》

新版キーワードブック特別支援教育（玉村公二彦ら編、クリエイツかもがわ）

《備考》

担当者は早期療育指導員として聴覚特別支援学校内の聴覚幼児早期療育教室で勤務歴のある実務経験者

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	教員免許状取得を目指す者として、最低限必要な障害等の概要を理解できる。
		子どもに適した支援方法を学び、教材研究の方向性を理解し、障害児の家族への支援について考えることができる。
		外国籍や貧困など特別的教育的ニーズのある子どもへの支援の方法を理解する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	60%
小テスト	
レポート	
発表・実技	20%
授業内課題	10%
その他（ ）	10%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	特別支援教育の理念と制度 (1) 教育の変遷、インクルーシブ教育	特別支援教育の歴史的変遷。インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する理念や仕組み、ICF, 合理的配慮	学習のまとめプリント	45分
2	特別支援教育の理念と制度 (2)	特別支援教育の理念、制度 特別支援学校と通常学校。アクティブラーニング	事前学習プリント	45分
3	通常の学級担任の気づきとアセスメント	通常学級の特別支援教育の重要性。学級経営。子どものアセスメント。	学習のまとめプリント	45分
4	発達障害の心理特性 (1) LD, ADHD	発達障害 (LD, ADHD) の特性理解と基本的な対応。発達の特性に応じた合理的配慮	事前学習プリント	45分
5	発達障害の心理特性 (2) ASD、知的障害	知的障害と発達障害 (自閉症スペクトラム障害ASD) の特性理解と基本的な対応。発達の特性に応じた合理的配慮	事前学習プリント	45分
6	二次障害の理解と対応	通常学校における特別支援教育の課題。発達障害の関連症状と精神障害。二次障害への対応。	学習のまとめプリント	45分
7	様々な障害の理解と対応／反転授業	視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱・病虚弱の特性の理解と基本的な対応。反転授業	事前学習プリント	45分
8	特別な教育的ニーズへの理解と対応／障害理解教育	外国につながる子どもの支援、貧困、児童虐待など特別な教育的ニーズの理解と基本的な対応。	事前学習プリント	45分
9	特別の指導「自立活動」	障害の捉え方と自立活動およびその実態。アクティブラーニング。合理的配慮を前提にしたクラス運営を実現するため、障害理解教育について理解する	事前学習プリント	45分
10	「通級による指導」での指導の実際	通級による指導仕組みと教育課程、指導。事例検討。アクティブラーニング	学習のまとめプリント	45分
11	特別支援学級での指導の実際	特別支援学級の仕組みと教育課程、指導。事例検討。アクティブラーニング	事前学習プリント	45分
12	ICT機器の活用と指導の実際	特別支援教育におけるICT活用の意義	事前学習プリント	45分
13	個別的教育支援計画と個別の指導計画	個別的教育支援計画と個別の指導計画の作成の実際	学習のまとめプリント	45分
14	特別支援教育コーディネーター校内支援体制	特別支援教育コーディネーター校内支援体制についての事例検討。アクティブラーニング。	事前学習プリント	45分
15	関係機関や保護者との連携。	保護者との連携とその支援。関係機関との連携	学習のまとめプリント	60分

《専門教育科目》

科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			科目ナンバリング	5031310700
担当者氏名	岡本 洋之			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

特別活動については、その意義、目標、内容、及び指導の在り方を学習する。総合的な学習（探求）の時間については、その意義、各学校において目標及び内容を定める際の考え方、指導計画作成の考え方を理解し、その実現のために必要な基礎的な能力の内容を身に付けるとともに、指導と評価の考え方及び実践上の留意点を修得する。

《授業外学習》

特別活動は日本の学校教育の中で特色ある分野であり、また総合的な学習（探求）の時間は時代の要請に応じて近年力が入れている分野である。このことをふまえて、両分野のみならず学校教育界全体の動きを日ごろからニュース等で十分に把握しておくこと。

《テキスト》

中学校学習指導要領（文部科学省）とその解説 高等学校学習指導要領（同）とその解説（※ただし購入する必要はない。必要な分を授業中にプリントして配布する。また文部科学省サイトよりダウンロードすることも可能である）

《学習状況・理解度の確認》

毎回授業後に振り返りの短文を書くことを求め、次の授業に生かす。提出物にはコメントを付して返却する。質問は、可能な限り随時受け付ける。担当教員のメールアドレス…okamoto@hyogo-dai.ac.jp

《参考図書》

中学校新学習指導要領の展開 特別活動編／総合的な学習編（明治図書） 高等学校新学習指導要領の展開 特別活動編（同）

《備考》

授業においてはディスカッションを行う。また担当者は、教員として高等学校勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	学校教育における特別活動の意義を理解し、人間関係形成・社会参画・自己実現や“チーム学校”の視点を持つ。
		学年による特別活動の変化、各教科等との関連、地域住民や他校と連携した対応等に必要知識や素養を体得する。
		総合的な学習/探求の時間での社会・生活課題探究のための指導計画作成/指導法/評価の知識技能を体得する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	
小テスト	20%
レポート	60%
発表・実技	20%
授業内課題	
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業の到達目標及びテーマ、概要、評価方法	自分の学校生活を振り返る	90分
2	特別活動（１）	学習指導要領における「特別活動」の目標と内容	学習指導要領を読む	90分
3	特別活動（２）	教育課程における「特別活動」の位置付けと各教科等との関連	学習指導要領解説を読む	90分
4	特別活動（３）	学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質	現場が抱える問題を考える	90分
5	特別活動（４）	「特別活動」における評価と改善活動	現場の課題を考える	90分
6	特別活動（５）	集団活動	実践例を調べてくる	90分
7	特別活動（６）	家庭・地域住民や関係機関との連携	先進例を調べてくる	90分
8	特別活動（７） 総合的な学習（探求）の時間（１）	「特別活動」に関する総括 「総合的な学習（探求）の時間」の意義と教育課程における役割	学習指導要領を読む	90分
9	総合的な学習（探求）の時間（２）	学習指導要領における「総合的な学習（探求）の時間」の目標、各学校における目標及び内容の設定	学習指導要領解説を読む	90分
10	総合的な学習（探求）の時間（３）	年間指導計画の作成	実践例を調べてくる	90分
11	総合的な学習（探求）の時間（４）	単元計画の作成	先進例を調べてくる	90分
12	総合的な学習（探求）の時間（５）	探究的な学習の過程と方法	現場が抱える問題を考える	90分
13	総合的な学習（探求）の時間（６）	「総合的な学習（探求）の時間」の評価	現場の課題を考える	90分
14	総合的な学習（探求）の時間（７）	「総合的な学習（探求）の時間」に関する総括	自分の学校生活を振り返る	90分
15	本授業全体の総括	「特別活動」、「総合的な学習（探求）の時間」と「生きる力」	本授業全体を振り返る	90分

《専門教育科目》

科目名	商業科教育法	科目ナンバリング	5041206200
担当氏名	池田 武	担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	4 ・ 選択
		開講年次・開講期	3 年 ・ 通年

《授業の概要》

商業科教員を目指す学生には必修の科目です。「高等学校学習指導要領解説商業編」を中心に商業教育の意義・目標、各科目の目標や内容について、指導要領を分析し、商業科の教員として第一に必要な確かな学力を育むための学びの教授内容を理解します。その後、年間学習計画の立案、学習指導案の作成、模擬授業の実施と一連の流れを通して実践的に理解し、教員としての資質を高めていきます。また、各自の模擬授業について討論を行い、有効な指導方法を用いた教授方法を養う。

《授業外学習》

高度な専門的知識を習得するために専門書を読む。高等学校商業科目の教科書を熟読する。

《テキスト》

・高等学校学習指導要領解説商業編（2018） ・高等学校用商業教科書

《学習状況・理解度の確認》

・専門知識についての試験・学習指導案の作成状況および模擬授業内容等により学習状況・理解度の確認を行う。

《参考図書》

・「指導と評価の一本化」のための学習評価に関する参考資料（2021） ・最新商業科教育法 日本商業教育学会（2011）

《備考》

・G I G A スクール構想やB Y O D 端末の導入に対応したI C T 活用を図る。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	1 商業教育の目標および各科目の内容について理解する。
	2 教材研究の方法について理解し、指導案に反映するための訓練を行う。
	3 指導案を基に模擬授業を実施し、有効な教授方法を学ぶ。
	4 教育課程や履修・修得を理解し、年間の指導計画をたてることができる。
	5 教員としての服務や資質を理解し、教員として研鑽をつむ

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	50%
小テスト	20%
レポート	
発表・実技	30%
授業内課題	
その他（ ）	
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	ガイダンス、商業教育とは	ガイダンス、商業教育の概略。履修者の理解度や習熟度に応じて多少変更することがある。	テキストp. 1～p. 10 通読	45分
2	商業教育の歴史・商業科目の推移	商業教育の歴史と商業科目の推移を理解する。	テキストp. 11～p. 15 通読	60分
3	ビジネス教育とは	ビジネス教育の目標を理解する。	テキストp. 1～p. 10 通読	60分
4	ビジネス教育の現状と学習指導案の作成	ビジネス教育の現状を理解し、学習指導案の作成方法を理解する。	テキストp. 95～p. 106 通読	60分
5	まとめ 課題発表	2・3・4週の授業の振り返りと課題項目についての報告する。	これまでの授業内容の整理	90分
6	ビジネス基礎について	ビジネス基礎の内容の概略と指導上の留意点を理解する。	テキストp. 11～p. 15 通読	60分
7	ビジネス基礎の学習指導案作成	ビジネス基礎の学習指導案作成する。	学習指導案作成	60分
8	ビジネス基礎についての模擬授業と討論	6・7週の授業の振り返りと模擬授業を行う。	模擬授業の準備	60分
9	ビジネス経済分野について（その1）	ビジネス経済（グローバル経済）、ビジネス経済応用（ビジネス・マネジメント）、ビジネス法規の内容を理解する。	テキストp. 37～p. 45 通読	60分
10	ビジネス経済分野について（その2）	経済活動と法の内容を理解する。	テキストp. 46～p. 50 通読	60分
11	ビジネス経済分野の学習指導案作成	ビジネス経済分野の学習指導案作成を作成する。	学習指導案作成	60分
12	ビジネス経済分野についての模擬授業と討論	10・11週の授業の振り返りと模擬授業を行う。	模擬授業の準備	60分
13	会計分野について（その1）	簿記の内容の概略と指導上の留意点を理解する。	テキストp. 51～p. 54 通読	60分
14	会計分野について（その2）	財務会計Ⅰ、財務会計Ⅱの内容の概略と指導上の留意点を理解する。	テキストp. 55～p. 63 通読	60分
15	まとめ 課題発表	13・14週の授業の振り返りと課題項目についての報告する（発表形式）。	これまでの授業内容の整理	60分

《専門教育科目》

科目名	公民科教育法			科目ナンバリング	5041206300
担当者氏名	關 浩和			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	4 ・ 選択	開講年次・開講期	3 年 ・ 通年

《授業の概要》

従来の社会科から公民科・地理歴史科となった背景を理解するとともに、学習指導要領に準拠した公民科指導法についての理解を深める。学習指導案の作成を通して基礎的な授業実践力の涵養を図る。

《授業外学習》

授業計画欄に記載の予習・復習等の内容に従い、事前・事後学修を行うこと。また、教科書や参考図書の該当箇所を読んでおくこと。

《テキスト》

・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版、2013 年

《学習状況・理解度の確認》

課題等には、コメントを付して返却する。

《参考図書》

①社会認識教育学会編『公民科教育』学術図書出版、2016年 ②高等学校公民科教科書(現代社会、倫理、政治・経済)のいずれか一冊用意すること(高等学校時に使用した教科書でも可)

《備考》

「成績評価の方法と評価の割合」を基準として総合的に評価する。・授業では、アクティブラーニングの要素を含んだ模擬授業を受講生個々に実施します。模擬授業を実施するには、子どもへの資料提示
トピック、バリエーション、活用方法、活用場面を積極的に活用

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	公民科教育成立の歴史的背景について理解することができる。
		公民科教育の意義とその目標・内容・方法についての認識を深めることができる。
		公民科教員としての基礎的資質を養い、学習指導案の作成や模擬授業を通して授業実践力を培うことができる。
		「現代社会における公民的資質」の基礎を養う力を身につけることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	30%
小テスト	20%
レポート	0%
発表・実技	10%
授業内課題	10%
その他()	30%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	公民科教育法を学ぶ楽しさとは	配布資料通読	45分
2	社会系教科教育の成立過程	社会科から公民科へ (1) 社会系教科教育の成立過程	配布資料通読	45分
3	公民科教育の成立と意義	公民教育の成立と展開 (2) 公民科教育の成立と意義	参考図書① p. 2～p. 7 要約	45分
4	公民科の目標と構造	公民科の学習指導要領について (1) 目標と構造	テキスト p. 2～p. 5 要約	45分
5	公民科の内容と特質	公民科の学習指導要領について (2) 内容と特質	テキスト p. 6～p. 10 要約	45分
6	公民科の年間指導計画	公民科授業づくりのための年間指導計画の作成方法について	参考図書① p. 30～p. 40 通読	60分
7	公民科の教材研究法	公民科授業づくりのための教材研究と学習指導のあり方について (1)	参考図書① p. 40～p. 45 通読	60分
8	「倫理、政治・経済」の学習指導	公民科授業づくりのための教材研究と学習指導のあり方について (2)	参考図書① p. 50～p. 60 通読	60分
9	「現代社会」の指導内容・方法	「現代社会」の教育目標と指導内容・指導方法について	参考図書② 該当箇所通読	60分
10	「倫理」の指導内容・方法	「倫理」の教育目標と指導内容・指導方法について	参考図書② 該当箇所通読	60分
11	「政治・経済」の目標・内容・方法	「政治・経済」の教育目標と指導内容・指導方法について	参考図書② 該当箇所通読	60分
12	「現代社会」の授業デザイン	学習指導案の作成 (1) 「現代社会」	参考図書② 該当箇所通読	60分
13	「倫理」の授業デザイン	学習指導案の作成 (2) 「倫理」	参考図書② 該当箇所通読	60分
14	「政治・経済」の授業デザイン	学習指導案の作成 (3) 「政治・経済」	参考図書② 該当箇所通読	60分
15	公民科の授業デザイン総括	学習指導案の作成 (4) 全体協議とまとめ	講義内容の整理	60分

《専門教育科目》

科目名	教育実習事前事後指導			科目ナンバリング	5041300200
担当者氏名	岡本 洋之			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	1 ・ 選択	開講年次・開講期	4 年 ・ 通年

《授業の概要》

本授業は必ず「高等学校教育実習」とセットで履修登録すること。また不定期開講となるため、掲示に十分注意されたい。年間のおおよその予定は次の通りである。

(1)教育実習事前学習会(模擬授業)―4月および5月、(2)教育実習に関する講話―同左、(3)教育実習報告会―6月、(4)高等学校授業見学―秋、(5)兵庫県播州地域に特有の教育問題に関する特別見学―冬。

《テキスト》

本学から発行される『教育実習の手引き』。なおテキストの内容を逐一説明する時間はないので、授業で取り扱わない内容も含め、テキストを隅々まで読んでおくこと。

《授業外学習》

科目の性質上、細かな授業技術や生徒との接し方、教材研究の仕方等、受講生各自で異なる課題を自分で見つけて意欲的な自学自習をしなければ、授業の目標に到達することができない。

《学習状況・理解度の確認》

毎時間の授業にて個別指導を行う。また成績評価への質問は、可能な限り随時受け付ける。なお担当教員のメールアドレスは、okamoto@hyogo-dai.ac.jpである。

《参考図書》

「高等学校教育実習」のページを参照。

《備考》

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークを課す。なお担当者は教員として高等学校で勤務歴ある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
	履修カルテ参照	事前指導において教員としてあるべき態度を理解し、すでに教員である自覚をもつ。
		事後指導において、それを確実化する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0%
小テスト	0%
レポート	0%
発表・実技	100%
授業内課題	0%
その他 ()	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション／教育実習に関する講話(1)	(オリエンテーション) 教員が授業の概要を説明し、細部に関しては受講生と協議する。(講話) 大学と小中高の学校文化の違いについて学ぶ。	教育実習の心得	90分
2	模擬授業(1)／教育実習に関する講話(2)	(模擬授業) 発声法、視線の向け方を中心に教室全体の把握を学ぶ。(講話) 休み時間や放課後も含め、生徒情報を収集することを学ぶ。	過去の教育実習の例からの学び	90分
3	模擬授業(2)／教育実習に関する講話(3)	(模擬授業) 板書の仕方を学ぶ。(講話) 教材研究は必ず活字資料の裏づけを取ることを学ぶ。	既習の教職演習のまとめ	90分
4	模擬授業(3)／教育実習に関する講話(4)	(模擬授業) 指名においては、個々の生徒への指導を全体に及ぼすことを学ぶ。(講話) 被差別の生徒への正しい対応が必要なことを学ぶ。	既習の人権教育のまとめ	90分
5	模擬授業(4)／教育実習に関する講話(5)	(模擬授業) 生徒の視線を集めるための所作について学ぶ。(講話) 在日外国人生徒へのあるべき対応を学ぶため、関係する近代史を学ぶ。	既習の近代史のまとめ	90分
6	模擬授業(5)／教育実習に関する講話(6)	(模擬授業) PowerPoint等、効果的な提示物の利用法(講話) 在日外国人生徒へのあるべき対応	既習の現代史のまとめ	90分
7	模擬授業(6)／教育実習に関する講話(7)	(模擬授業) 授業づくりのポイントのまとめ(講話) 人権問題、および体罰禁止の理由	ルソー『エミール』の再読	90分
8	教育実習報告会	学部内公開の場で、教育実習の成果と課題を報告する。	実習の成果と課題のまとめ	90分
9	事後指導オリエンテーション	教員が、事後指導の目的、学習目標、学習方法、評価方法等を説明する。	実習の成果と課題のまとめを再	90分
10	モラルの構築(1)	教育実践現場を訪ねて、モラルの構築に関する学びを深める。	学校におけるモラルの構築の現	90分
11	人権問題	教育実践現場を訪ねて、人権問題に関する学びを深める。	学校における人権問題の現状と	90分
12	メディア創造力の育成	教育実践現場を訪ねて、メディア創造力の育成に関する学びを深める。	学校におけるメディア創造力の	90分
13	生徒理解と学級経営等	教育実践現場を訪ねて、生徒理解と学級経営等に関する学びを深める。	学校における生徒理解と学級経	90分
14	モラルの構築(2)	本学が位置する兵庫県播磨地域内の教育実践現場を訪ねて、モラルの構築に関する学びを深める。	兵庫県内の学校におけるモラル	90分
15	全体総括	今や日本社会のみならず、人類に共通する課題を意識して職責を果たすことが必要であることを押さえる。	グローバリズムが進む世界にお	90分

《専門教育科目》

科目名	教職実践演習（高）			科目ナンバリング	5043300300
担当者氏名	岡本 洋之			担 当 形 態	単独
授業方法	演習	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	4 年 ・ II 期

《授業の概要》

本学がこれまでに培ってきた学校現場等（教育委員会及び教職経験者）との緊密な関係を十分に活用し、教職課程の学びの集大成として行う。その際に以下の4事項に関する内容を含む。

(1) 使命感や責任感、教育的愛情等 (2) 社会性や対人関係能力 (3) 生徒理解や学級経営等 (4) 教科内容等の指導力
なお学修内容・理解度等を把握する「履修カルテ」を活用し、履修者の修得内容に応じて、補完的指導を含める。

《テキスト》

特には指定せず、必要に応じて印刷物を配布する。

《授業外学習》

学生個人によって未到達の目標や課題や不足している知識・技術は異なるので、各人が自分でこれを整理すること。もちろん授業担当者は全力で支援する。

《学習状況・理解度の確認》

毎回の授業終了時に小レポートを課し、それを用いて授業時間外をも含め、フィードバックを行う。なお授業担当者のメールアドレスはokamoto@hyogo-dai.ac.jpである。

《参考図書》

(1) 西之園晴夫・宮寺良夫『教育の方法と技術』（佛敎大学教育叢書）(2) 西岡加名恵・川地亜弥子『教職実践演習ワークブック ポートフォリオで教師力アップ』（ミネルヴァ書房）

《備考》

ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、フィールドワークを課す。なお担当者は教員として高等学校勤務歴のある実務経験者である。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力	授業の到達目標
履修カルテ参照	受講生が身に付けてきた資質能力を教育現場で指導できる能力として有機的に統合し、形成する。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	
小テスト	
レポート	
発表・実技	40%
授業内課題	50%
その他（ ）	10%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	本授業の到達目標を明示した上で、学生がこれまでの学修を振り返りグループ討論し、各学生が未だ到達していない目標を自覚、確認する。	教職課程での学修の振り返り	90分
2	教職とは何か	ロールプレイングを通して教職の意義や教員の役割、職務内容、使命感や責任感、子どもに対する責任と教育的愛情等について振り返る。	左に関する学修の振り返り	90分
3	教職に求められる資質	新聞記事等を題材とし教員の行動と社会的評価に関する問題についてグループ討論を通じ、社会性や対人関係能力について振り返る。	社会性や対人関係能力について	90分
4	生徒理解と学級経営①	学校現場教員における生徒理解や学級経営等に関する問題についてグループ討論し、それをもとに各自学級経営案を作成する。	左に関する学修の振り返り	90分
5	生徒理解と学級経営②	作成した学級経営案についてグループ討論を行い、生徒理解や学級経営等に関する問題をより深く理解する。	左に関する学修の振り返り	90分
6	学校見学の事前学習	次回に見学する学校の特色の理解と、学校現場で見学すべきポイントを取りまとめ学校見学の準備を行う。	学校見学の心得の再確認	90分
7	学校見学	学校現場を見学し、見学レポートを作成する。	見学レポートの作成と再点検	90分
8	学校見学の事後学習①	見学レポートに基づき、社会性、対人関係能力についてのグループ討論を行う。	左に関する学修の再振り返り	90分
9	学校見学の事後学習②	見学レポートに基づき、生徒理解、学級経営等についてのグループ討論を行う。	左に関する学修の再振り返り	90分
10	教科内容の指導力	教科内容等の指導力の意義についてグループ討論を行う。	左に関する学修の振り返り	90分
11	模擬授業①	模擬授業を実施する（学生A）。	模擬授業の評価を考える	90分
12	模擬授業②	模擬授業を実施する（学生B）。	模擬授業の評価を考える	90分
13	模擬授業③	模擬授業を実施する（学生C）。	模擬授業の評価を考える	90分
14	各自の課題の確認	模擬授業をふまえ、教科内容等の指導力についてグループ討論し、各自の課題を確認する。	左に示した自分の課題を考える	90分
15	本授業の総括	全体討論を通じ、本授業で扱った4つの資質能力が不可分であり、教員はこの資質能力の向上を図っていかなければならないことを学ぶ。	教職課程全体の振り返り	90分

《専門教育科目》

科目名	教育課程論			科目ナンバリング	509ST41000
担当氏名	關 浩和			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

近年の教育改革では、特色ある学校づくりが求められるようになっていく。学校づくりの核となるのが、教育の内容及び方法の選択・組織に関わる教育課程である。本講義では、我が国の教育課程の基準としての学習指導要領の歴史的変遷を実践的視点からその諸理論を概観して、今日の教育改革や教育課程改革を理解し、そこに潜む問題や課題を把握し、新しい学校教育の展開と特色ある教育課程についてあり方について学ぶ。

《テキスト》

關浩和（2023）『教育課程論研究』吉本宝文堂，176p. 初回の講義の時に配付します。頒布価格 1,000円。受講生は、必ず購入してください。

《参考図書》

・文部科学省(2017)『小学校学習指導要領』、文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説』を適宜参照する。 ・授業の中で、適宜プリントを配付する。

《授業外学習》

・講義ノートを準備して、授業外で必ずテキストを読み、予習・復習を行い、毎回の講義内容の整理を行い、講義ノートにまとめることで各自1冊のノート（＝ポートフォリオ）づくりを行うこと。

《学習状況・理解度の確認》

・小テストを実施して学習状況，理解度を確認します。 ・分からないことは、適宜質問を受け付け対応します。

《備考》

Education Curriculum Theory ・受講者には、主体的に授業に参加することを期待する。

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	教育課程の構造や教育課程開発理論，編成原理に関する基礎知識及びその関連性を説明することができる。
○	2-3 教育・保育に関わる諸課題について論理的に考える力	社会的背景を加味して学習指導要領の歴史的変遷を説明したり，カリキュラム・マネジメントにおける教師の役割について説明することができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0%
小テスト	40%
レポート	40%
発表・実技	10%
授業内課題	10%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教育課程の編成原理	教育課程は，教育基本法や学校教育法，学校教育法施行規則，学習指導要領などに基づいて編成されていることを概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
2	国家主義教育課程の 成立過程①	学校制度が始まるまでの日本の古代から近世（藩校や寺子屋の教育法）に至る教育の歴史を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
3	国家主義教育課程の 成立過程②	文明開化の欧化主義と復古的儒教主義との間で揺れていた日本の教育が，天皇制国家主義教育の確立に至った経緯を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
4	大正期新教育運動による カリキュラム改革	大正デモクラシーの時代の風潮の中で，子どもの個性や自主性の尊重を旗印として起こった大正自由教育を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
5	戦後「新教育」の カリキュラム改革	中央集権的で画一的な教育編成を改め，アメリカの進歩主義教育思想に基づく教育課程編成論を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
6	学習指導要領に見る 教育課程の変遷①	経験主義による教育内容の改造を図った昭和22年版学習指導要領について教育内容及び教育課程編成原理を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
7	学習指導要領に見る 教育課程の変遷②	経験主義による4領域を打ち出して教育内容の改造を図った昭和26年版学習指導要領について教育内容及び教育課程編成原理を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
8	学習指導要領に見る 教育課程の変遷③	高度経済成長期の系統主義による教育内容の改革を図った昭和33年版学習指導要領について概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
9	学習指導要領に見る 教育課程の変遷④	「教育内容の現代化」を図った昭和43年版学習指導要領の歴史的変遷について社会的背景を基に読み解く。	テキストを読む 内容整理	60分
10	学習指導要領に見る 教育課程の変遷⑤	現代化カリキュラムは過密という批判の中からゆとりカリキュラムとなった昭和52年版学習指導要領の特徴を明らかにする。	テキストを読む 内容整理	60分
11	学習指導要領に見る 教育課程の変遷⑥	「生きる力」と「ゆとり」を打ち出した平成元年・平成10年版学習指導要領までの歴史的変遷を理解し，特徴と課題を明らかにする。	テキストを読む 内容整理	60分
12	学習指導要領に見る 教育課程の変遷⑦	“最低基準性”を打出した学習指導要領の一部改訂の動向や平成20年版学習指導要領の“確かな学力”と“生きる力の育成”を打出した学習指導要領を概観する。	テキストを読む 内容整理	60分
13	学習指導要領に見る 教育課程の変遷⑧	平成29年版学習指導要領を取り上げ，資質・能力の育成やカリキュラム・マネジメント，主体的・対話的で深い学びを重視した新学習指導要領の特徴を明らかにする。	テキストを読む 内容整理	60分
14	組織論による特色ある教育課程開発の理論と実際	地域の特性や保護者のニーズ，子どもの特性，学校の教育課題などを視点としたカリキュラム・マネジメントについて理解を深める。	テキストを読む 内容整理	60分
15	教師の役割及び教育課程の評価的研究・総括	カリキュラム・マネジメント及びカリキュラムの一部としての教師の役割について考察する。	テキストを読む 講義の総括	60分

《専門教育科目》

科目名	教育方法・技術論			科目ナンバリング	509ST43400
担当氏名	河野 稔			担 当 形 態	複担
授業方法	講義	単位・必選	2	開講年次・開講期	2 年 ・ II 期

《授業の概要》

これからの社会を生きる子どもたちを育成するために、どのような授業をすれば上手く教えられるのか、どのように教材や学習環境を工夫すれば学習者は上手く学べるのかを学習する。インストラクショナルデザインの考え方に基づいて、授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面で指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶとともに、学習指導案を実際に作成し、受講生間で評価することで、授業設計の一連のプロセスを学ぶ。

《テキスト》

稲垣忠編著(2022)『教育の方法と技術 Ver. 2』北大路書房

《参考図書》

勝見健史(2023)『国語科 主体的学習における教師の「指導」』文溪堂、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、文部科学省 小学校・中学校・高等学校『学習指導要領解説 総則編』等

《授業外学習》

予習では、事前にテキストの授業範囲を読み、指定された事前課題に取り組むこと。復習では、指定された事後課題に取り組むとともに、授業で取り上げたテキストの各章末の章末問題に取り組むこと。第5回の授業企画書の作成、第15回までの授業パッケージの作成は、授業中に作成および発表準備の時間は取れないため、グループ（制作チーム）のメンバーで協力して授業外時間に制作活動を進めておくこと。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付けて返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

ディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う、ICT活用双方向授業です。とくに授業パッケージの作成はグループで活動します。主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。 英語

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	子どもに育むべき資質・能力を理解し、教育方法を工夫する意義を説明できる。
◎	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を	学習指導案の基本的な要素と作成のながれを理解し、実際に設計できる。
○	2-2 教育・保育に関わる基礎を理解し、実践に反映させる力	学習者を支援する基本的な指導技術を身につけ、活用することができる。
○	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	ICT機器・教材の活用法を理解し、授業設計の際に適切に位置づけることができる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0%
小テスト	0%
レポート	50%
発表・実技	20%
授業内課題	30%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	教師という仕事における教育の「方法」と「技術」	本講義全体のガイダンス。教師という仕事における「方法」「技術」の意味と意義を理解する。	配布資料・参考図書で内容確認	45分
2	教育方法の前提となる教師の「みる」力 (1)	教師の「教える」専門性を支える、教師の子どもを「みる」力の前提性・重要性について理解する。	配布資料・参考図書で内容確認	45分
3	教育方法の前提となる教師の「みる」力 (2)	演習を通して、子どもを指導するにあたって具体的事実の意味を捉えることの意義について考察する。	配布資料・参考図書で内容確認	45分
4	将来を生きる子どもたちに必要な「学力」とは	今、育てるべき「学力」の内容と構造、そのために必要な教師の「指導」の内容について理解する。	配布資料・参考図書で内容確認	90分
5	学力育成の教育方法としての「指導と評価の一体化」	具体的な「方法」「技術」の存在に着目し、学力育成と「指導と評価」の関係性について理解する。	配布資料・参考図書で内容確認	60分
6	授業づくりとそのプロセス、学習評価のデザイン	授業づくりのプロセス、学習目標と評価を理解する。授業パッケージのチームをつくり、テーマと学習目標・評価を考える。	テキストの第3章と第4章を通読	90分
7	学習環境のデザインとデジタル化、授業企画書の発表	学習環境を構成する要素や資源を理解する。授業パッケージで想定するテーマを実施する上で必要な環境を検討する。	テキストの第5章を通読	90分
8	授業を支える指導技術と学びを引き出す指導技術	ICT活用を含め、教師として学習者中心の学びのための指導技術を理解する。授業パッケージでの学び方を紹介する。	テキストの第6章と第7章を通読	90分
9	学習指導案をつくる (1) 学習目標の設定	学習指導案の構成要素および学習目標の明確化について理解する。授業パッケージのテーマについて学習目標を定義する。	テキストの第8章を通読	60分
10	学習指導案をつくる (2) 深い学びを導く教材研究	教科書等の役割、教材研究としての課題分析を理解する。授業パッケージの学習目標について課題分析図を作成する。	テキストの第9章を通読	90分
11	学習指導案をつくる (3) 主体的・対話的な学習過程	協働学習や自己調整学習を理解し、探求型のアプローチを確認する。授業パッケージのテーマについて学習過程を作成する。	テキストの第10章を通読	90分
12	学習指導案をつくる (4) 学びが見える評価方法	ルーブリック等の学習の質を見極めるための評価方法を理解する。授業パッケージのテーマについて評価計画を作成する。	テキストの第11章を通読	60分
13	ICT・デジタル教材の活用、情報活用能力の育成	ICTの活用や情報活用能力を育成する学習場面を確認する。授業パッケージでのICT活用と意識する情報活用能力を検討する。	テキストの第12章と第13章を通	90分
14	これからの学習環境とテクノロジーの役割	テクノロジーによる新しい学びの姿を整理する。ICT環境における学校と教師の役割を検討する。授業パッケージをまとめる。	テキストの第14章を通読	90分
15	模擬授業の実施と授業の改善、授業のまとめ	授業内容をふりかえるとともに、授業パッケージを仕上げて模擬授業を実践する。	テキストの第15章を通読	90分

《専門教育科目》

科目名	教育におけるICT活用の理論と方法			科目ナンバリング	509ST43500
担当氏名	河野 稔			担 当 形 態	単独
授業方法	講義	単位・必選	2 ・ 選択	開講年次・開講期	3 年 ・ I 期

《授業の概要》

児童生徒1人1台端末による学習環境が整備され、ICT（情報通信技術）による個別最適な学びと協働的な学びが実現できるようになった。この科目は、主体的・対話的な深い学びの実現のためのICT活用指導力の養成を目指し、ICTを活用した学習活動の意義を理解し、学習場面に応じたICTを活用した授業の設計と準備、児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法、教師や学校を支援するツールとしてのICTの活用について学ぶ。また、各教科等のデジタル教材を作成する演習にも取り組む。

《テキスト》

稲垣忠・佐藤和紀編著（2021）『ICT活用の理論と実践』北大路書房
文部科学省（2020）『教育の情報化に関する手引き-追補版-』

《参考図書》

稲垣忠編著（2022）『教育の方法と技術 Ver. 2（改訂版）』北大路書房、文部科学省『教育の情報化の推進』、文部科学省 小学校・中学校・高等学校『学習指導要領解説 総則編』等

《授業外学習》

予習では、毎回の授業までに、テキストの該当箇所、あるいは、LMS（学習支援システム）で公開されるプリントを事前に通読すること。復習では、毎回の授業のテーマに沿った課題に取り組むこと。デジタル教材の教材企画書の作成、教材の作成とその発表は、授業中に作成および発表準備の時間は取れないため、グループのメンバーで協力して授業外時間に制作活動を進めておくこと。

《学習状況・理解度の確認》

小テストや提出物にはコメントを付けて返却するとともに、口頭発表には講評を行う。オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

ディスカッションやグループワークやプレゼンテーションを行う、ICT活用双方向授業です。とくにデジタル教材の作成はグループで活動します。主体的かつ意欲的に授業に参加することを期待します。 英語表

《授業の到達目標》

ディプロマポリシーの能力		授業の到達目標
◎	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	情報社会の進展に伴うICTを活用した教育の意義と教育データを活用した個別最適な学び等の将来像を説明できる。
◎	3-1 教育・保育に関する知識・技能を更新し続ける力	学校のICT環境の整備に伴う、校務の情報化や外部人材などの活用、情報セキュリティ対策のあり方を説明できる。
○	3-3 教育者・保育者としての専門的判断に基づき体系的指導を展開する力	オンライン教育を含めた学習場面に応じて、ICTを効果的に活用した授業を計画し、デジタル教材を作成できる。
○	2-1 子どもの個別的な理解に基づき教育・保育を柔軟に展開する力	各教科等の特性に応じて、児童生徒がICTを活用して個別あるいは協働的に学ぶための基本的な指導法を説明できる。

《成績評価の方法と評価の割合》

評価方法(%)	
試 験	0%
小テスト	0%
レポート	20%
発表・実技	20%
授業内課題	60%
その他（ ）	0%
合計	100%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など	予習・復習等の内容	予習・復習等の時間
1	オリエンテーション	教育の情報化とGIGAスクール構想の現状を確認し、現代社会におけるICTの役割、ICTを活用した教育の意義を概観する。	テキスト第1章を通読	45分
2	教育における視聴覚メディアとコンピュータ活用の展開	視聴覚メディアとコンピュータの学校教育での歴史的展開を理解し、学校でのメディアと技術の活用を議論する。	テキスト第2～3章、第7章を通読	60分
3	教師のICT活用指導力とデジタルコンテンツの活用	デジタル教科書等のデジタルコンテンツの特性と活用のあり方を踏まえて、教師に求められるICT活用指導力を理解する。	テキスト第5章、第8～9章を通読	90分
4	対話的な学びと個別最適な学びを支えるICT	ICTを活用した協働学習の特性や個別最適化された学びの意義を理解し、先端技術を含めた活用のあり方を議論する。	テキスト第4章、第10～11章を通読	60分
5	特別支援教育と幼児教育におけるICT活用	特別支援教育と幼児教育でのICT活用の意義と現状を確認し、実践事例から活用するための留意点を理解する。	テキスト第6章、第13章を通読	60分
6	遠隔授業・オンライン学習と学びの保障	遠隔授業やオンライン学習の特性と活用方法および著作権等の留意点を理解し、ICTによる学びの保障について議論する。	テキスト第12章を通読	60分
7	校務の情報化と教育データの活用	校務支援システム等による校務の情報化を理解し、教育データの種類や活用、情報セキュリティ等の課題を確認する。	テキスト第14章を通読	60分
8	児童生徒によるICT活用	児童生徒によるICT活用の意義と各教科における学習場面を確認し、日常的にICTを活用するための留意点を理解する。	テキスト第15～16章を通読	60分
9	情報活用能力と情報モラル教育	情報活用能力における情報モラル教育の位置づけを確認し、実践事例をもとに授業づくりの考え方を議論する。	テキスト第18章を通読	60分
10	プログラミング教育で育成する資質・能力	プログラミング教育のねらいや位置づけを理解して、具体的な授業方法や授業をする際の留意点を理解する。	テキスト第17章を通読	90分
11	探求を支える情報活用能力	探求の基盤となる資質・能力と情報活用能力の関係を確認し、学校図書館の活用等の実践事例から指導法を理解する。	テキスト第19～20章を通読	90分
12	デジタル教材の作成と活用(1)教材の企画検討	ICTを活用した教材作成として、グループで作成するデジタル教材を設計して、指導内容を企画書としてまとめる。	教材企画書の作成	120分
13	デジタル教材の作成と活用(2)教材の作成	実際にICT機器を使用して、グループで設計したデジタル教材を作成する。	デジタル教材の作成	120分
14	デジタル教材の作成と活用(3)教材の発表と相互評価	グループで作成したデジタル教材を発表し、共有をして相互評価をして、改善点を検討する。	デジタル教材の作成と発表準備	120分
15	全体のまとめとICT活用指導力の向上	教師のICT活用指導力に求められる資質・能力をまとめ、ICT活用指導力の向上とその留意点について考察する。	ICT活用指導力チェックリストの確認	45分